

6月報(2023年) 萌 カトリック福山教会



福山教会活動テーマ：

「喜びをもっていのちをもたらす福音を社会に伝えよう」

〒720-0808 福山市昭和町 7-26

☎【084】923-0614 FAX【084】923-0615

e-mail : fuku-ch@ktd.biglobe.ne.jp

【6月はイエスのみ心の月】

ミカエル神父

イエスのみ心は全人類に対する神の愛の象徴としてイエスの心臓を表し、その信心はイエスのみ心に表される神の愛を思い起こし、その無限の愛のしるしであるみ心をたたえるものとして中世に始まりました。

特に聖マルガリタ・マリア・アラコック（1647-90）がみ心の信心についての啓示を受けて17世紀にフランスで広まりました。1675年6月16日、この聖女はご聖体を前にして、イエスの愛にこたえたいという思いに駆られました。そのときイエスは、愛情に燃えているみ心を示して、人々の間に存在する冷淡な心を嘆かれ、イエス自身の愛に倣ってその心を尊ぶことを勧められました。

またこのようなイエスの出現が数回にも及び、ご聖体の祝日（キリストの聖体）後の金曜日をみ心を礼拝する特別な祝日として定めるようにとのお告げにより、み心の信心の内容と形式が明確にされるようになりました。

そして1856年に教皇ピオ9世によってイエスのみ心の祭日のご聖体の祝日後の金曜日に全世界で祝うことが定められました。ご聖体とみ心の主日がおおよそ6月に祝われるというこのような歴史からして、次第に6月が「イエスのみ心の月」と自然に浸透し、制定されてきたことは十分に考えられます。

み心の信心

聖マルガリタ・マリア・アラコックが受けた啓示の内容を簡単にまとめるとみ心の信心は主に二つのことに要約できます。それは①イエス様の限りない愛をいつも思い出すこと、②イエス様の受難に対するの償いを行うことです。そのために、初金や聖時間などの信心習慣が生まれたのです。

教皇フランシスコは、このイエスの聖心への信心について、2020年6月7日（日）正午の集いの後半、次のように話されている。6月は特にキリストの聖心に捧げられています。イエスの聖心に対する信心は、霊性の大家たちにも、素朴な神の民たちにも、共通のものです。



実際、イエスの人間的であると共に神的なる聖心は、わたしたちがいつでもそこから神のいつくしみ、赦し、優しさを汲み取ることができる源泉なのです。

イエスの聖心からこうしたものを汲み上げるには、福音の一節に立ちどまり、イエスのすべての行いと言葉の中心に、愛、御父の愛を感じる必要があります。御父の愛は、御子と、わたしたちの内にある聖霊の愛をおくられました。

また、それは、聖体を礼拝することで可能となります。聖体には神の愛が秘跡において存在します。こうして、わたしたちの心も、イエスの聖心に倣い、少しずつ、より忍耐強く、より寛大に、よりいつくしみ深いものとなることができるでしょう。

わたしが祖母から習った古い祈りがあります。それはこういう祈りです。「イエスよ。わたしの心を、あなたの聖心に似たものにしてください」。これは美しい祈りです。「わたしの心を、あなたの聖心に似たものに」。この美しく、小さな祈りを、この6月に唱えましょう。

さあ、さっそく、今一緒に唱えてみますか？「イエスよ。わたしの心を、あなたの聖心に似たものにしてください」。もう一度祈りましょう。「イエスよ。わたしの心を、あなたの聖心に似たものにしてください」。



わたしたちの課題

このみ心の月にあたり、これからわたしたちの福山教会の中でこういった信心習慣と日常の中のお祈りの習慣を再開、回復していきたいと思えます。すぐにはちょっと無理があるところもありますが、わたしたちの心の中で信心生活への熱望を再び見出し、それを実行していくことができるようにわたしたちの祈りと力を合わせていきましょう。

【ミカエル神父様歓迎会】

責任チーム協働 田中 靖



着任1ヶ月が経った5月21日に、新しく福山教会に主任司祭として来られたミカエル金神父様の歓迎会が、第一部はミサの最後に、第二部は信徒総会の後で歓迎昼食会として行いました。

第一部では、責任チーム協働の中根さんから歓迎の花束贈呈に引き続いて、着任のご挨拶をされました。「福山教会のような大きな教会を任されたが、信徒の皆さんの助けがあって初めて司祭としての務めが果たせるので、皆さんよろしく願います」とのことでした。福山教会の皆さん、これから神父様と共に歩んでいきましょう！

第二部では、神父様を囲んで美味しいお弁当を楽しみましたが、サプライズが2つありました。

一つは神父様が韓国の聖歌のギター弾き語りを披露して下さったことです。2曲のうちの1曲は今月の聖母月にちなんでマリア様の歌でした。詳しい歌詞の意味はわかりませんでしたが、「聖母」は「ソンモ」と発音するんだと教えて下さいました。「レパートリーはたくさんあります。リクエストにはいつでも応じますよ～」とのことでしたので、聴いてみたい方は神父様をお願いしてみてください。



もう一つのサプライズは、宮田マリベルさんお手製の冷製デザート「ブコパンダン」です。タピオカ、ココナツの実、ジェリーパンダンが牛乳と練乳と生クリームをミックスした中に入れて、お弁当の後の爽やかな絶品デザートになりました。鮮やかな緑色をしていて見た目も最高！。フィリピン伝統のデザートだそうで、こちらも興味ある方は宮田マリベルさんをお願いしてみてください。

終わった後、何人かの方に感想を聞いてみました。

「神父様の韓国語を聞きたいと思っていたので、聞けてよかった。」

「福山教会に若くて元気な神父様が与えられ、ありがたく思った。」

「一緒にお弁当をいただき、愉快地話ができて、コロナ前の昔に戻ったようで嬉しかったです。」

「美味しいお弁当やフィリピンのデザート、食後のコーヒーを頂くことができ、いい時間を過ごすことができました。」

「久しぶりに協同体としての繋がりを感じた楽しい一日だったような気がします。」

最後になりましたが、お茶の準備、お菓子やコーヒーを準備くださった女性会の皆様に感謝いたします。

【乙女峠まつりに参加して】

戒能 明美

5月3日、ゴールデンウィーク後半の初日、早朝教会に向かい、大型バスに乗りこみました。久しぶりの「乙女峠まつり」への参加。



今回2回目の参加で緊張しながらの出発でしたが、野田さんや藤本さんがレクレーションとして「他己紹介」を催して下さり、あっという間に津和野に到着。乙女峠を目指しました。

会場では緑豊かな自然の中、屋外の祭壇に美しい赤の祭服をまとわれた司教様方。その色のコントラストの美

しさが心に焼き付いています。

この地で長崎浦上から 153 人が流刑となり、37 人の尊い命が奪われた歴史を思うとき、自分の信条を貫き生き抜く強さを学ばなければいけないと思わされます。

暁の星小学校は 6 年生で「プリエール(祈り)」という名の研修旅行を行います。2泊3日で長崎、天草、崎津へ向かい、平和学習とカトリックの歴史を学ぶ中で自分の生き方を考えます。この乙女峠まつりも大きなつながりがあり、事前学習の一つとして子どもたちとも学びを深めたいと思いました。



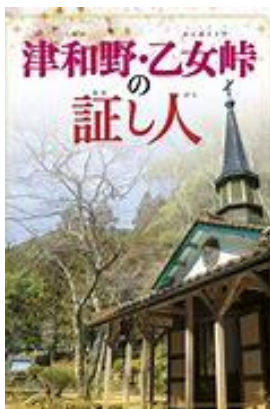
今回ペシャワール会のパネル展示のお話しも伺って後日拝見することができました。私自身にとっても、これからを生きる子ども達にとっても、様々な方との出会いが自分の生き方に何かしらの贈り物をいただけるのだと今回の参加で改めて思うことができました。

ありがとうございました。

【乙女峠巡礼記】

富田恵子

5月3日毎年のように行われてきた乙女峠まつりが、コロナ禍で3年非公開ミサとなっていました。4年ぶりの復活では、福山教会より久し振りにバスで津和野へ向かいました。お天気に恵まれ乙女峠でのミサは、前田万葉枢機卿の司式で広島教区の沢山の司祭団と各小教区の信徒が集い祈りを捧げました。



行きのバスの中でシスターより、「新しく本ができたのと、修道院に買ってきてと頼まれている」と聞いたので、どんな本なのかなと思い津和野で購入しました。

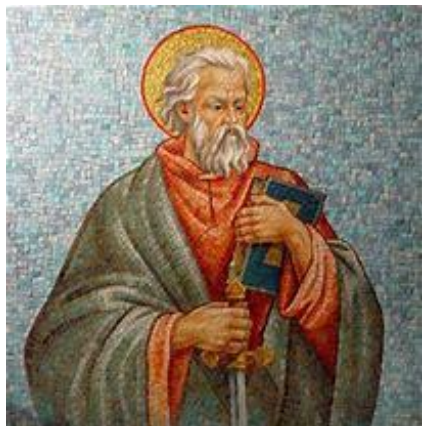
帰宅して、分かり易くまとめられていると読みはじめたのですが、37人の殉教者の一人ひとりについて記されており、一人目でもう胸がしめつけられるような感情がわき、2人目にすすめませんでした。

列聖にむけて津和野の殉教者の方々の信仰にふれて自分をふりかえり、お恵みをいただき、信仰生活を続けていきたいと思っています。

皆様もぜひ手に取って頂きたいです。「津和野乙女峠 37 人の証し人」女子パウロ会 990 円
同じ時期、福山に流配された方々のこともあわせてこれからも調べていきたいと思っています。

(浦上キリシタン福山流配研究会 富田恵子)

【ブラザー阿部のみ言葉の分かち合い】～使徒パウロの2テモテへの手紙4章～



『私は、戦いを立派に戦い抜き、決められた道を走り通し、信仰を守り抜きました。今や、義の栄冠を受けるばかりです。』
今日は、このパウロの言葉を選びました。

普通人は、このように自分の生涯に自信と確信を持って言うことはありません。まさにパウロは、全生涯を神の国の宣教のために走り尽くしたのです。この言葉には偽りはありません。この言葉には、パウロがどんな気持ちで宣教に臨んでいたかがわかります。

神の国の宣教のためには、どんなものにも変えられない確信と、強い信仰があったのです。コリント書に、こんなパウロの言葉があります。私の大好きな箇所です。

『パウロは、すべての人に対して、すべてのものになるために、すべての人となった。』
何とかして何人かでも救うために。ギリシア人のためにはギリシア人となり、弱い人のためには自ら弱い人となった。極端な言葉では、罪に陥っている人には、自らを罪人のようになった、ともなべています。彼にとって、すべての人の救い、神の国の宣教のためには自分を無にし、命をかけて望んだ心がにじみ出ています。

「福音のためならどんなことでもします。それは、私が福音に共に預かるものとなるためです。」
コリント9章。 私たちは、このパウロに倣いましょう。イエスに近づくための近道です。パウロは、この手紙の中で言います。

『この天の国の栄冠は、主が来られるのをひたすら待ち望む人には、誰にでも授けて下さいます』
このパウロの救いの保証は、素晴らしいパウロからの贈り物です。

『私は福音のため、人々の救いのためなら、どんなことでもします。』
私たちには、なかなか真似はできませんが、彼の熱意、信仰、熱い思い、少しでも見倣って生きたいと思うのです。そしてこの思いは行動へと繋がるのです。

『私が生きているのは、私を愛し、私のためにご自分を捧げられた神の子に対する信仰によるものです』
そうです。私たちの前には、私たちのためにご自分のすべてを捧げられたイエスが歩いておられるのです。



5月は聖母月、学校でも教会でも、もちろん修道院でも、マリア様のご像が美しく飾られていることでしょう！懐かしく思い出します。ここはお寺と神社がやたらと多い地域だと感じます。

古い伝統と宗教的な行事などが多く、プロテスタント教会の牧師さんとも話すのですが、キリスト教伝道にとって、なかなか難しい地域だと。でも、その伝統や文化、生活のスタイルなどの中に、キリストが大切にされた人としての心遣いなどが生きているので、その部分を一緒に大事にしていけばいいのかなと思います。

人を温かく迎える心は、マリア様の心に通じると思います。

この地域の人々の心の安らぎを、マリア様にゆだねてこの聖母月を過ごしたいと思います。

ところで、先月の「いのちの光 フクシマ 3.15」での、志賀勝明氏（元請戸漁業組合員）の講演について分かち合いたいと思います。3.15については4月号で説明しましたが、東電原発の3回目の爆発で、放射能が大量に拡散され、20キロ圏内は全住民の強制避難が実施された日です。志賀さんは若い時から浪江の請戸で漁師として働いてこられ、東京電力福島第一原子力発電所の誘致には最初から反対で、「誘致にどこまでも反対するなら、漁に出て何事かあっても助けに行かない」と村八分の目にもあってこられたとのこと。

（実家は小高の村上地区で、津波で全地区が壊滅状態。今も居住不可の地域でソーラーパネルがどんどん広がっていて、私が毎月、月命日の11日に村上霊園にお祈りに行くたびに景色が変わっています。）

今、請戸漁港は試験操業から本格操業に移行したといわれているが、原発から10km圏内は、漁の自粛をするようにとの定めがある。（私たちは本格操業ができるようになってよかったと喜んでいたのですが、実態はまだまだとのこと。）

農耕地の放射線の被害は、除染して汚染土を剥いで、新しい土と入れ替えをして何とか作物を作れるようになったが、山は除染されていないので、海は山からの放射能を含む汚染水が川に流れ込んで土砂と一緒に海に運ばれるので、いつまでもきれいにならない。国に、河川の調査をするよう請願しているが、手を付けてもらえない。そして、魚も厳しい検査をくぐって、やっと売れるようになって、これから元の漁の状態に戻れるかというこの時に、政府は、この春から夏にかけて、トリチウム汚染水の海洋放出の実施を宣言している。

（トリチウム汚染水（処理水と報道されます）は、無害だと国際原子力委員会も宣言しましたが、やっと風評被害が収まってきたこの時に、また元の木阿弥になってしまうような 方



策に、漁を生業としておられる方々の気持ちを逆なでしてしまうようなやり方には、私達でも納得がいきません。また、本当に無害なのか？疑問が残ります。）

漁師がどんな思いをしているか？河川の検査をして、実際に海がどんな状態なのかをしっかり見据えて、納得のいく方針を打ち出していきたい。と強く訴えられました。



そしてまた、今の日本の憲法は、まだまだ自由民権なども2割程度しか現実化していない。言論の自由というが、マスメディアがどれほど統制されているか、国を相手に物申す時に見えてくると。

ご自分の身をもって体験されたことを分かち合ってくださいました。そして、自分と同郷のこの小高が出した、憲法学者、鈴木安蔵の実家が、小高駅前通りにある。と。

今の平和憲法は、決してアメリカのGHQに押し付けられたものでなく、鈴木安蔵をはじめ、数名の憲法学者によって草案がつけられ、それをGHQが採用したものです。

同じ駅前通りにプロテスタントの教会があります。鈴木安蔵は、熱心なクリスチャンの両親と一緒にこの教会に通ったようです。洗礼は受けていないようですが、その精神にはキリスト教の人権、自由の精神が根付いていたのでしょう。志賀さんは、「鈴木安蔵を讃える会」平和憲法を守る会を立ち上げ、運動を実践されています。

(下の写真は鈴木安蔵の実家 夕暮れに撮ったので暗くてすみません)



自民党が、この平和憲法の改正を唱えています、この約80年間、日本が戦争に巻き込まれなかった大きな要因は、この憲法9条の戦争放棄の精神にあると思います。

憲法記念日のあるこの5月に、平和憲法について考えることも大切かなと思います。

どんどん防衛費・軍備費予算が膨らんでいるこの日本の状況は、楽観できない感じになってきています。

広島出身の岸田総理大臣は、広島出身を強調して、核の脅威と平和を脅かすものに対して毅然とした態度をとると、初めごろは約束をされたと思うのに、いつの間にか、原発も容認、稼働期限の延長、40兆円の防衛費、防衛費のための増税などと、真逆の方向転換を宣言しています。本当に世界に誇る平和憲法が、危うくなっているのを感じます。小高出身の憲法学者、鈴木安蔵はこの日本の状況をどのような思いで眺めておいででしょうか？

【帰天のお知らせ】

マリア・ゴレッティ 佐藤登志子様 (82 歳)

謹んでお知らせします。どうぞ心を合わせてお祈りください

【6月・7月の行事予定】

6月		7月	
4(日)	三位一体の主日 日曜学校歓迎遠足	1(土)	福者ペトロ岐部司祭と187 殉教者
11(日)	キリストの聖体	16(日)	日曜学校終業式 街頭募金
16(金)	イエスのみ心	23(日)	祖父母と高齢者のための 世界祈願日
24(土)	洗礼者ヨハネの誕生	29(土)～ 30(日)	日曜学校キャンプ
29(木)	聖ペトロ 聖パウロ使徒		

【編集後記】

臨時の聖体奉仕者の講座が始まった。

コロナ禍で何もできなかったことを思うとこれからの活動が楽しみだ。

教会行事も動き出した。

ところであなたのマスクは、いつ頃外れそう？(N.T.)

